

第1号議案 平成28年度事業報告

1. 利用者の力が発揮できる生活と場づくり

(1) 自立支援・重度化予防支援

1) 利用者の自立支援・重度化予防・健康管理・リハビリ・環境づくり等

①ふるさと会通所介護連絡協議会の開催（毎月第2金曜日）

利用者の意欲が向上し、楽しく生活できることを支援するデイサービスを目指し、取り組み活動報告や問題点の検討、利用者の個別ニーズに更に対応する方法等介護支援専門員の意見も聞きながら、意見交換会を毎月行った。

開催月日	会場	参加部署	協議内容
4月8日 14時～15時半	ヘリオス 10名参加	こだま・浜ちゃん・夕顔・森の里・福祉企画室	①通所介護の取り組み内容 ②事業所の強みについて再確認
5月13日 14時～15時半	ヘリオス 10名参加	こだま・浜ちゃん・夕顔・森の里・福祉企画室	①平成27年度実績報告 ②各事業所実践報告と内容検討
6月10日 14時～16時	ヘリオス 12名参加	こだま・浜ちゃん・夕顔・森の里・居宅支援・福祉企画室	①実践報告 ②利用者の意欲を引き出す声かけとは ③新規利用者の不安を軽減するには
7月8日 14時～16時	ヘリオス 13名参加	こだま・浜ちゃん・夕顔・森の里・居宅支援・福祉企画室	①各事業所実践報告と内容検討 ②居宅ケアマネからの意見 ③新規利用者の声より
9月9日 14時～15時	ヘリオス 9名参加	浜ちゃん・夕顔・森の里 居宅支援・福祉企画室	①実践報告（浜ちゃんー地域の方も参加できるヨガ教室・夕顔ー収穫祭報告等） ②利用拒否の方のデイ利用の成功事例
10月14日 14時～15時	ヘリオス 9名参加	こだま・浜ちゃん・夕顔・居宅支援・福祉企画室	①実践報告（こだまー登録数アップ。夕顔ーかかし祭りに出品。Ds 浜ちゃんー登録者19名になった） ②居宅ケアマネへの毎月の利用状況報告の見直し
11月11日 14時～15時	ヘリオス 6名参加	浜ちゃん・森の里・居宅支援 福祉企画室	①実践報告 ②現在の問題点（設備面や送迎車両等）
12月9日 14時～15時	ヘリオス 8名参加	こだま・浜ちゃん・森の里・ 居宅支援・福祉企画室・	①実践報告（森の里：音楽療法士によるコンサート開催等） ②居宅ケアマネより（デイ職員が細かな配慮ができるようになってきた等） ③登録者が増えた事で、サービス担当者会への出席頻度が多くなったことから、来年からの協議会の頻度について検討し、2か月毎の開催とする
2月10日	休会		

②教育委員会主催の全体勉強会

のべ名 609 名参加

月日	研修テーマ	講師	参加人数
5月16日	ライフケアカラー ～高齢者を守る暮らしの色彩活用法～	カラーオフィス PERSONAL 大倉美知子先生	65名
6月20日	食中毒・感染予防について	感染対策委員会	70名
8月15日	事故防止 少し見方を変えてみませんか？ ～事故原因を分類化して考える～	事故防止委員会	75名
9月19日	南海トラフ地震について	地域防災対策 中岡 久幸先生	82名
10月17日	接遇の基礎 ～日常の対応が信頼につながる～	ケアハウス花の郷高知 佐野事務長	74名
11月21日	褥瘡予防：スキンケアの基本 ～正しいスキンケアで皮膚トラブルを予防しよう～	高知赤十字病院 田村 収代先生	83名
12月13日	救急救命講習	高知市中消防署	20名
12月19日	安らかな看取りのために	看取りを考える会	73名
2月20日	インフルエンザ流行のため休会		
3月20日	身体拘束廃止について	身体拘束廃止・虐待防止委員会	67名

*外部事業所での勉強会および、外部研修は含まず。

③行事

ふるさと会全体行事として以下の行事の他、各事業所では日常生活の中で外出・ドライブ・畑作業・作品作り・買い物・調理等利用者の力を引き出す様々な取り組みを実施した。

月日	行事名	月日	行事名
5月8日(日)	よこせと海辺のにぎわい市	11月6日(土)	中追勝賀瀬秋まつり
8月6日(土)	へリオス納涼祭	11月21日～ 12月14日	利用者・地域の方の 作品展
8月20日(土)	あじさいの里夏祭り	11月27日(日)	家族交流会
9月4日(日)	風花の里祭り	12月28日(月)	餅つき
9月15日(木)	熟年会	1月11日(水)	新年会
10月12日(水)	へリオス運動会		

2.地域のニーズに応え、地域の拠点となる施設作り

①地域住民の力が発揮できる場作り

地域サロン、介護予防教室、認知症サポーター研修、いきいき百歳体操、囲碁将棋の日等の取り組みを行った。

取り組み内容	予定日	開催日	内容	参加者数
囲碁将棋の日	3 か月毎 第 3 日曜	4 月 17 日 7 月 17 日 10 月 16 日 H29 1 月 22 日	地域の中で閉じこもりがちな男性高齢者や利用者を対象に送迎付きで囲碁や将棋・麻雀等を行っている。参加者には ZEYO を配り、次回からの参加費としている他、他のイベントへの参加を促している。	4 月 31 名 (7) 7 月 36 名 (8) 10 月 35 名 (6+ボウ2) 1 月 36 名 (8+ボウ2) () は職員
法律相談会	2 か月毎	4 月 17 日 7 月 17 日 10 月 16 日 H29 1 月 22 日	細田弁護士による相続問題等の無料の相談会。他のイベントと共催している。	各 2～3 名
地域清掃	2 か月毎 第 2 火曜日 7:30～8:15	5 月 10 日 7 月 3 日 10 月 11 日 (9 月雨天振替) 11 月 8 日 1 月 10 日 3 月 14 日	施設周辺～横浜地区、宇津野トンネルまでの地域清掃活動を行っている。	各 15 名前後
利用者作品展	年 1 回	11 月 21 日～ 12 月 14 日	ふるさと会の利用者の作品の他、地域住民 10 名程度の方の手芸品等の作品を展示し好評を得ている。外出の機会にもつながっている。	ヘリオス内外のすべての事業所の利用者 地域住民 10 名程
第 6 回 ヘリオス家族 交流会	年 1 回	11 月 27 日(日) 10:00～12:00	①内田理事長「今あなたにできること～親不孝のｽｽﾞ」 ②音楽療法士 雫担当 「音楽療法を体験しよう」 ③家族交流会	利用者及びご家族 4 5 名 地域住民 5 名
いきいき百歳 体操	毎週水曜日 10:45 ～ 11:45	毎週水曜日	地域住民やヘリオス利用者を対象に開催。毎回 6～7 名の地域住民が参加している。 今年から認知症予防体操の「しゃきしゃき百歳体操」を始め、毎回 10 名程の参加があった。	毎回 30～40 名前後

生きがいファームバザー	4 か月毎	5 月 29 日		参加者 30 名
		10 月 2 日		150 名
		平成 29 年 2 月 28 日	春野婦人部、春野高校生等のボランティアあり。	70 名
収穫祭	毎月 1 回 畑の作物を 使用しての 食事作り	4 月 11 日	サターアンダギー・オニオンスープ	各 20 名前後の 参加者・居宅 ケアマネの参 加あり。
		5 月 17 日	えんどう豆のかき揚げ	
		6 月 16 日	ジャガイモラザニア	
		7 月 20 日	焼きナス等	
		8 月 19 日	ピザ	
		9 月 12 日	夏野菜カレー	
		10 月 18 日	餃子	
		11 月 16 日	焼き芋・芋天	
		12 月 15 日	ふろふき大根・豚汁	
		1 月 20 日 3 月 21 日	大根そぼろあんかけ 炊き込みご飯・豚汁	
防災訓練	年 4 回	6 月 23 日 (木)	日中想定火災訓練	利用者・職員 毎回 167 名
		9 月 12 日 (月)	地震津波避難訓練 (炊き出し)	
		11 月 9 日 (水)	日中想定地震津波避難訓練	
		2 月 14 日 (水)	夜間想定火災訓練	

②地域支援ネットワーク作り

主に高齢者支援センターとしての地域活動や、地域密着型サービス事業所としての「運営推進会議」を開催し、利用者及び家族、地域民生委員、南部包括支援センターとの意見交換等を行う事ができた。

①地域サロン	対象地区	開催頻度	開催場所	内容	参加者数
サロン ひぐらし	竹島	月 1 回	竹島町内 喫茶店	介護予防や勉強会	5～10 名
たけのこ会	横浜	月 1 回 第 3 水	ヘリオス 内	食事会や勉強会、ヘリオス 行事参加	5～6 名
リハビリ キッチン	竹島	月 1 回	個人宅	調理を通しての交流 平成 28 年 12 月より開始	4～6 名
②ミニデイ					
潮江小学校 ミニデイ	潮江	年 2 回	潮江小学 校	地域高齢者を対象に介護 予防等について勉強会開 催	10～20 名
瀬戸西町ミニ デイ	瀬戸西町	年 1 回	公民館	ヘリオス音楽療法士によ る、音楽療法、脳トレ、体 操、レク等を実施	20 名

瀬戸南町 ミニデイ	瀬戸南町	年 1 ~ 2回	公民館	ヘリオス音楽療法士による、音楽療法、脳トレ、体操、レク等を実施	10~15名
③地域勉強会					
瀬戸女性学級	瀬戸	4月1日	瀬戸西町 公民館	「地域支え合いについて」	56名
認知症サポーター養成講座	長浜	5月26日	長浜市民 会館	桂浜出張所と共同	56名
サロンひぐらし	竹島	9月26日	竹島町内 喫茶店	高知市健康増進課と「健康」について	8名
百歳体操後の勉強会	横浜	10月18日	ヘリオス	高知南署による特殊詐欺予防啓発劇「寿限無」	20名
孕西町なかよし会	孕西	11月1日	孕西 公民館	「心の健康」「施設の選び方」について	30名
④介護予防活動					
横浜新町はつらっクラブ	横浜新町	7月4日	横浜新町 西公民館	布ぞうり作り	12名
老人クラブ	瀬戸東町	7月21日	横浜東 公民館	布ぞうり作り	6名
認知症カフェ「さくらカフェ」	長浜	12月14日	認知症カフェ「さくら」	しめ縄作り	30名

③防災対策

9月12日には地域を交えた防災訓練、11月12日は地域住民及び誠和園非難訓練の受け入れを行った。又、サービス利用している地域住民のマップの更新を行い、災害時救助支援できるよう取り組んだ。

3. やりがいと働きやすい職場作り

①介護の魅力を発信していく

ふくし就職フェアへの参加を行い、ふるさと会の魅力について学生や求職者に対してプレゼンテーションを実施した。

期日	名称	場所	内容
平成28年 8月13、19日	第1回ふくし就職フェア 施設見学会開催	かるぽーと	全体参加者263名中、ブースへのエントリー者50名
6月2~3日	四国老人福祉施設協議会 研修会	高知県県民文化 ホール	2日目第2研究部会「人材確保戦略と人材育成」にてふるさと会の実践報告を行った。
平成29年 2月23日	第2回ふくし就職 フェア	かるぽーと	全体参加者219名中、ブースへのエントリー者37名

②福祉人材の確保

平成 27 年度のふくし就職フェア後の採用活動を通して、平成 28 年 4 月には県内福祉専門学校卒業生 3 名、県外大学介護福祉学科卒業生 2 名、平成 29 年度採用の職員確保ができた。
又、この他福祉専門学校卒業生の採用や、ハローワークを通じての採用もあった。

期日	活動内容	応募者	成果
平成 28 年 8 月 19 日	施設見学会	4 名の参加あり	県外大学卒業予定の 栄養士 2 名採用につながった
平成 29 年 2 月 23 日	介護体験	1 名の就職希望あり	平成 29 年度に介護体験実施後、 採用となった

③人材育成

職位別研修を行い、職員の知識技術の向上に向けて支援を行った。

【新人研修】

期日：平成 28 年 4 月 1 日（金）、3 日（月）～4 日（火）

対象者：新卒者 5 名（うち県内福祉専門学校卒業生 3 名、県外大学介護福祉学科卒業生 2 名）
経験者 1 名の新人
中途採用者 4 名

場所：ヘリオス 2F 介護者教室

内容：①認知症の理解と重度化予防 ②感染症食中毒予防 ③高齢者の尊厳について（身体拘束廃止）④褥瘡予防 ⑤個人情報保護 ⑥事故防止等

【新入職員フォローアップ研修】

(1) 期日：平成 28 年 6 月 10 日
6 月 17 日

対象者：平成 27 年下半期採用の職員 19 名

場所：ヘリオス多目的ホール

内容：①今までの振り返り ②仕事の中での気づきと自己課題 ③今後の目標設定等

(2) 期日：平成 29 年 1 月 13 日

対象者：平成 28 年上半期採用の職員

場所：はるの湯

内容：①今までの振り返り ②仕事の中での気づきと自己課題 ③今後の目標設定等

【新人サポーター養成研修】

新人職員の定着を目標に、現場で新人をサポートする立場にある職員を対象に指導者としての養成研修を行った。

参加者：のべ 39 名

日程	内容	参加人数	講師
H28 年 4 月 9 日	人材育成の必要性・具体的な OJT	6 名	企画委員
5 月 24 日	よりよい人間関係作り	6 名	〃
8 月 23 日	新人の悩みに向き合う	4 名	〃
11 月 22 日	ピアハウス高知との合同研修「離職分析」	18 名	〃
H29 年 3 月 23 日	まとめ「新人の成長について」	5 名	〃

【中堅職員アクティブ研修】

内田グループの医療・福祉部門での合同研修として「第1回利用者・患者さんのためのケアの工夫・発明展」を開催

期日：平成28年10月23日（日）

エントリー部署：特養森の里高知3階低層棟、5階、リハビリテーション部門、ショートステイ
花の郷高知、風花の里、あじさいの里、デイサービスこだま

場所：ピアハウス高知2階リハビリ室

【管理職研修】

管理職の人材育成能力の向上を目的として、公平で客観的な人事考課ができるように研修を行った。

期日：平成29年2月19日及び25日

場所：多目的ホール

講師：もみのき病院看護部長 佐田 久美子氏

参加者：主任・副主任等 合計24人

2. 各事業所総括

◆入所サービス部門

●特別養護老人ホーム森の里高知

年間平均稼働率96.7%（前年度97.7%）、入居者の平均介護度4.3（前年度4.3）と前年より稼働率は微減している。新規入所者18名の平均介護度は4.27であった。

退所者は18名で、昨年より4名少なく、うち特養での死亡の方が11名と施設での看取り希望の方が多かった。次いで、入院後に吸引等の医療ケアが必要となり、医療施設に転院された方は4名いた。病院受診は27年度274件、28年度292件で増えているが、入所時からの定期受診もある為、体調悪化での病院受診者数は減っている。施設での早めの医療対応や、カンファレンスにて食事の工夫、適切な姿勢の保持、離床、臥床などの生活面の工夫が結果となっている。

<医務部門>入院はその他を除くと、1位は内臓疾患15名、肺炎13名、脳疾患5名となっている。昨年と比べ、入院者数はほぼ変わらないが、結石、肺炎・誤嚥性肺炎による長期入院が増えている為、入院日数合計は240日増えている。

<リハビリテーション部門>介護レベルに応じた職員研修については、勤務時間内に個別にポジショニングや福祉用具（リフト・スライディングボード・シート等）の使用法伝達等介護技術研修を実施した。

高知家統一基本ケアセミナーへの参加呼びかけを行い、当施設が会場となった際に介護職計15名の参加があった

<栄養部門>個人の日常生活が維持できるための体力保持予防に食欲低下、体重減少、摂食機能の低下を早期に発見できるように介護職員と連絡はとりあえた。食欲低下や体重減少の方には好物を提供したり栄養補助食品をすすめたり食事形態を検討するなど改善にも努めた。

<介護支援専門員>「24時間チームケアでの認知症ケアの実践」「医療連携のできる介護施設」「看取りのできる介護施設」として、新たな加算が始まり書類作成と会議が増えたが、全体的に協力して取り組む事ができた。介護現場がケアプラン作成による負担感が軽減できるよう今後、書類の簡素化等に取り組んでいきたい。

<介護部門>寝たきり、重度化予防を重点目標におき、リフトやを使用し、スライディングボードとスライディングシートを使用し、持ち上げない介助を実施した。

又、トイレ介助の流れで歩行する機会を作り利用者の下肢筋力低下防止に職員全体で取り組んだ。他職種と協力し、利用者個人に合った足台を作製し利用者の姿勢管理を行った。新人職員や異動でリフトの使用経験がない場合はその都度機能訓練員や職員が指導し、現在は職員全員が使用できている。看取りケアについて利用者様はもちろん御家族様にも最後まで安心してケアを任せて頂ける様、看取り委員を中心に居室の模様替え・アロマや家族様との関わりについて定期的に話し合う事ができた。

●特別養護老人ホーム風花の里

平均稼働率 96.9%(前年 91.1%)、平均介護度 3.7 (前年 3.7)

平均稼働率は前年度より 5.8%上がっている。28年度は入院が11件あったが、すぐに空床になった事を近隣の居宅介護支援事業所や以前利用してくれた事のある居宅介護支援事業所にFAX等連絡しショートステイ利用が20件繋がり、空床を活用することができた。退所者は5名で、入院が3名、特養入所1名、死亡1名であった。新規入所者5名の平均介護度は3.8であった。

施設内通貨「ZEYO」の取り組みとして、利用者様には洗濯物干しや洗濯物たたみ等の役割をもっていただき、施設内にある“風花堂”で欲しい物を買っていただくなど、自己決定の場を設けた。

●ケアハウス花の郷高知

特定施設30床の稼働率は、今期は93.7%(前期91.9%)であった。一般の稼働率は95.2%(前期93.4%)、全体では94.5%(前期92.7%)と少し上がった。入退去数は特定施設で7名、入居時の平均介護度は2.8、一般の新規入所は3名で平均介護度は2.6と昨年の1.9より少し高い方が入所された。入所窓口の一元化やホームページの活動内容の更新など行ってきました。最初は効果がほとんど見られなかったが、年度末の3月頃から男性入居者の希望者が増えて、待機者の確保が出来ている。特定では、健康を維持する事で活動の場に繋げて行こうと、ケアプランに掲げた水分・食事・運動を中心に、毎月の目標に上げるなど、職員の意識を高め実施したが、食事量や水分量の低下を防ぐ事が出来ず入院してしまった入居者様もいた。提供する側の工夫がもっと必要だった。

今年は骨折にて入院した入居者様は0名だった。今後更に居室への閉じこもりを無くし、日中の活動性を上げる為に、毎日の運動の必要性を職員が理解して対応する事が今後の課題である。

●ケアハウスあじさいの里

月平均稼働率94%(前年度86.9%)、平均介護度1.8(前年度1.9)

28年度入居申し込み者数21名と多く、3名は28年度中に当施設入居しており平均介護度は1.8であった。

相談件数は42件あり、紹介先としては多い順に病院(SW等)、ケアマネ、知り合いの紹介が上位となっている。少数ではあるが、ネットの施設紹介サイトを検索してHPを見て決めたという方や、相談者の中にHPを見た事がある方も複数おり、HPが活用されてきていることを感じる。

27年度と比較すると、入院件数は27年度28年度とも17件と変わらないが、入院実日数は27年度997日に対し、28年度414日と前年比41.5%にとどまった。

前年に比べ、骨折、脳梗塞といった長期化しやすい疾患が少なかったこと、早めの対応により精神不安や内科疾患も長期化せず早期退院に向けることができたことが入院実日数の激減につながっている。この結果が全体の稼働率の上昇にもつながっており、疾患に対する早期対応と入院者の状態確認等による早期退院への努力が評価できる。28年度目標の利用者のやりがい作りや重度化予防として①レクリエーション等を行う日を週2回設定し、作品作りや外出等の取り組みを行うことで、外出頻度、取り組みのバリエーションが増え、入居者の楽しみややりがいに繋がった。

②不定期であるがHPのブログに行事の記事等をのせる事で、HPを見たという相談者や就職希望者がいた。③早めの受診や入院等の対応をすることで、入院の長期化を防ぎ、退居者も少なく、稼働率の向上に繋がった。

●グループホーム浦戸の里

稼働率は今期95.9%（前期98.4%）と昨年より下がっている。平均介護度も前年2.0から1.82と、昨年と比較して減少している。5名の新規入所者の平均介護度は1.4であった。

H28年度の入院理由は内臓疾患、次いで精神疾患となっている。異変があればすぐにご家族と連携を図り受診を行なっていたが、入院件数は増加となっている。

上記疾患件数は前年度に比べ増加がみられているが、骨折に関しては散歩等活動を増やした効果もあり0件となった。

●グループホーム福寿の家

稼働率は今期94.7%（前期91.9%）と昨年より少し上がっている。平均介護度は2.4（前期1.7）と少し上がってきている。平成28年度福寿の家入所申込件数は10件あり、いの町立居宅介護支援事業所3件、ケアプラン寿限無2件、いの包括・土佐病院・新別の里・ぼっちり・家族から各1件あり、研修会へ参加し、他居宅事業所等と情報交換を行ったり、パンフレットを配布するなどし、前年度と比べ、いの町以外からの入所申込を頂く事ができた。又、いの町主催の研修会など参加し発表など行った。入院の糖尿病悪化による入院治療が多く、次いで脳疾患による入院が多かった。前年度と比べると、入院延べ日数合計では、今年度が34日程少なかった。

◆在宅サービス部門

●ショートステイ森の里（短期入所生活介護）

平均稼働率は82.9%（前年74.1%）平均介護度2.9であった。新規件数は昨年の72件から、28年度95件と23件増加している。紹介元居宅数も30事業所と昨年より5事業所増加している。稼働率の上昇は相談員2名体制と事業所の取り組みに対する結果であるといえる。居宅支援事業所からも森の里は余暇活動や機能訓練（個別・生活リハ・脳リハ等）を評価してくださる声も上がってきている。運動習慣を機能訓練員だけに任せることなく、エルゴやペダル、歩行訓練、立位等、部署として行える取り組みも平行して行う事で機能向上を図った。

●デイサービスセンター森の里

①通常規模

稼働率は今期 73.0%（前期 71.1%）平均介護度は 2.2（前期 2.1）とどちらも微増した。新規利用者 38 名（前期 18 名）となっており、森の里居宅より 24 件、その他居宅 14 件とまんべんなく紹介が増えている。前期から取り組んだ施設内通貨 ZEYO 活動も利用者に定着しており、更に利用者が意欲的になれる内容の充実が必要である。慢性的に職員が不足していたが、業務内容（入浴時間の見直し等）を見直し、自立支援につながるケアを行なった他、職員が定着できるよう人材育成・チームワーク向上に向けて取り組みを行なった。

②認知症対応型通所介護

新規利用者は 8 名（前期 5 名）であったが、中止者は 8 名（死亡 3 名や特養入所 3 名入院 2 名）となり、稼働率は 47.3%（前期 49.2%）となった。平均介護度 3.5（前期 3.5）とより重度の方の利用が多くなっている。

●デイサービスこだま

稼働率は今期 74.5%（前期 79.8%）平均介護度は 1.9 であった。稼働率は 9 月 10 月は 93%となったが、4 月～6 月の利用者の相次ぐ入院に対応できず、前期を下回った。

しかし、新規利用者 24 名（前期 12 名）とピアハウスからは 6 件の増加。居宅事業所数も 3 から 6 事業所となった。散歩や昼食作りが定着し送迎時間も柔軟に対応しており、ケアマネの選択肢の一つになっていると思われる。又、ホームページのブログ更新を月に 1～2 回行い利用に繋がったケースもある。

地域の方のために一閑張り教室を 2 年前より月に 1 度開催しており、少ない人数ではあるが継続できている。

●デイサービスセンター夕顔

平均稼働率 85.5%（前期 66.1%）平均介護度は 1.6 であった。居宅事業所からの新規申し込みは合計で 18 名（ピア居宅 15 件、居宅あかり 1 件、生協介護 1 件、西部高齢者 1 件）の紹介を受け、平成 27 年度より 5 件多く、又、利用者の利用回数も増えたことから、事業所定員を 12 月より 15 名から 18 名に変更し、1 月には稼働率が 97.7%となった。登録者も 31 名から登録者数 36～39 名まで伸ばせた。畑活動についてポットに種を植えビニールハウスを活用し苗を育て、畑に植えるというサイクルもでき充実しています。また、夕顔収穫祭を毎月実施し、作物をみんなで調理し楽しく過ごす事を心掛けた。

●デイサービス浜ちゃん

平均稼働率は今期 60.7%（前期 51.1%）平均介護度は 1.6 であった。浜ちゃんロード又ユリ街道（農道）・花海道を毎回歩いた。屋外歩行を行う事で、建物の中に閉じこもるのではなく、出来るだけ自然の力を取り入れて下肢筋力低下を防ぎ少しでも向上できるように取り組んだ。又、歩いた距離を毎月数値化する事で、次へのステップ（来月はもっと歩こう！）に繋げ日常に変化を持たせる事に力を入れて取り組んだ。登録者も 19 名～20 名を維持しているが、更なる稼働率向上が必要。

●デイサービス中追

4 月～2 月までの 11 か月の稼働率は今期 16.2%（前期 22.6%）平均介護度は 3.7 であったが、近

年の介護職員不足の問題が解決できず、町の介護保険課にも相談し現在休止中である。

◆ヘルパー部門

●ホームヘルパーステーションよこはま

職員数が昨年より1名減少したことから新規契約20件（前期46件）、終了28件（前期32件）と登録者毎月の平均利用者数は「介護」49.7名（前期49名）、「予防」31.1名（前期35名）と要支援の方の利用をセーブしている。介護給付の利用回数は1名当たり9.5回（前期9.3回）、要支援の方は月4.5（前期4.8回）の利用である。又、職員不足から介護保険外サービス（自費ヘルパー）の利用者を4～6名とし、月20件ほどにセーブし、要介護者の身体介護を主に援助している

●定期巡回随時対応型訪問介護看護つなぐ

新規18名、中止は17名であった。新規利用者の78%（前期69%）が要介護1・2の軽度の方である為収入に大きな影響があった。平均登録者17.8名、平均介護度1.9であった。定期訪問回数月896.8回（1人当たり50.3回、1日1.6回/人）、随時訪問月28.3回であった。自立支援に基づいたサービス提供を心掛け、モニタリングとミーティングを重ねた結果、職員個々が、どうすれば自立に繋がるか、自立支援のためにどう工夫すれば良いかを考えながら行動できるようになってきた。

◆居宅支援・高齢者支援センター

●森の里居宅介護支援事業所

新規利用者今期は90名（前期65名）であった。終了者は63名（前期55名）ため、登録者は1年初230名から252名と25名増加している。新規利用者の90名の内、要介護1—52名（58%）要介護2—17名（19%）要介護3—11名（12%）要介護4—6名（7%）要介護5—4名（4%）であった。要介護1～2の軽度の方が77%を占めている。

●高知市南部地域高齢者支援センターよこはま出張所

上記2—③に記載

●看護小規模多機能居宅介護 生きがいファームはるの

新規利用者は21名（前期13名）うち13名が医療機関より退院し65%を占めている。新規利用者の平均介護度2.3であった。中止者は14名（前期8名）であり、25名の定員に対し登録者は年初16名、年度末は22名で、月平均20.6人であった。通いは月平均306回（1人当たり14.8回）、宿泊月平均563日、訪問月平均196回であった。回復期病棟への営業を重点的に行った事より、今年度は病院からの紹介が半数以上あり、居宅からの紹介も入院中の方であった。

また短期利用7名あり内2名が本登録へ移行しており、今後も可能な限りでの短期利用受け入れをしていく事で本登録へ繋げて行きたい。

●訪問看護ステーションさえざり

新規利用者12名（前期17名）中止者17名（前期11名）。中止理由は入院が11名、軽快が2名、死亡が3名その他1名であった。看護小規模多機能との兼ね合いから通常の訪問看護の様に多数の契約を頂くことは出来ず、また看護職員の入れかわりや体調不良による休職等マンパワー不足の状況が続いている。

●風花の里配食サービス

新規申込み 144 件（前期 106 件）、中止は 92 件（前期 42 件）であった。年間配食数は高知市 6592 食（月 549 食 1 日 18 食）で前期 5952 食（月平均 496 食 1 日 16.3 食）に対して月 53 食増加、民間 39402 食（月 3283.5 食 1 日 108 食）と前期 31704 食（平均月 2642 食・1 日 87 食）より増加しているが、調理員の不足など課題は多い。